

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議の中で理念について話し合いを行い、職員が具体的にケアの中で実践しているように心掛けています。	「人は人として存在することによって尊く、真の福祉は人の尊さを知り個人の人格を敬愛することから始まる」という法人の理念に基づき、会議や日々のミーティングで話し合い、全職員で共有し実践につなげている。理念にそぐわない言動は殆どみられないが、あれば管理者が助言している。申込時や契約時に法人の理念を本人や家族に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中心市街地という立地条件の中で交流する機会が少ないですが自治会の協力を得て幼稚園や各行事へのお誘いを頂いて地域の方と交流を深めています。	自治会費を納め、お祭りなどがあれば寄付もしている。春と秋の2回幼稚園児とふれあったり、地区のお祭りには子供神輿・獅子舞がホームを訪れたり、歌手のコンサート等も行なうなど、地域の人々と交流している。利用者は地域包括支援センター主催の介護教室にも定期的に出掛けている。ヘルパー実習も今年度2週間ほど受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターからの紹介者の見学や、地域の方へ認知症事業所の内容を紹介する機会を設けて理解いただけるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回会議で取り上げられた内容について、職員へ報告し改善、実践してサービスの向上に努めています。	家族代表、民生児童委員協議会会長、区長、区事務局長、市介護保険課職員、地域包括支援センター所長などの出席を得て、奇数月に開催している。年度初めのみ利用者代表が出席している。出席者からボランティアの紹介や地区行事の情報等をいただき、地域の人々との交流や連携に活かしている。地域との防災協定に関しても相談中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ毎回出席して頂き助言を頂いています。事故報告時の連絡届出、認定申請など折に触れ、市と連携が取れるように努めています。	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているのでホームの利用状況や運営状況等を理解していただいている。何かあれば気軽に相談ができ助言も頂いている。介護認定更新の申請代行をしたり、認定調査員の訪問時には本人の状態を伝えている。三分の二の家族の方が同席している。社協の生活自立支援制度を利用している利用者もあり、介護相談員の来訪も申し込む予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束のついて話し合いを設け、研修へ参加して拘束排除への意識をもちケアをしています。変化がない時は極力玄関を開錠しています。	玄関や事務所に「身体拘束排除宣言」を掲示している。通常は玄関の施錠は行なわれないが冬季で面会者が多く、感染症予防対策のため家族に説明の上、玄関を施錠している。利用者は内側から鍵を開けることが出来る。家のことを気にする利用者にはドライブがてら時折自宅周辺を回り安心していただいたり、買い物があれば利用者と一緒に掛ける等、気分転換の機会を設けている。職員は拘束に関する具体的な行為を理解し、拘束のないケアに心がけている。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員が虐待防止法についての研修を受講し会議の中で発表し理解を深め意識を高めるようにしています。業務の中で疑問に思える行動、言動など指摘し見逃さない支援に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、自立支援を利用されている方が数名いますが、職員は担当者と連携を取り個々の支援方法にあった支援を実施しています。折に触れミーティングの中で確認し合い制度への意識を高めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容、重要事項等の説明をご理解して頂いてから同意を得ています。報酬改定、徐状態の変化に伴う機器等についてもご家族等と話し合いを持ちご理解が得られるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には事業所の新聞を定期的に行き出して利用者の様子をお知らせしています。訪問時や電話、手紙など、些細な事柄も含めてお話し、気軽に相談や御意見を言ってもらえる雰囲気作りを心掛けています。	ほぼ8割の利用者は口頭で不平や不満を伝えることが出来る。年4回、「こもれ陽新聞」を発行し、行事の様子、地域やボランティアとの交流の様子、職員紹介、暮らしの様子などを写真入で紹介している。家族の来訪は多い。職員とは気軽に相談でき話しやすいとの声もある。敬老会やクリスマス会には約半数の家族が来訪しており、家族会設立に向けて動き始めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員と同じ立場に立つことに心掛けて、日常会話、提案、意見などに傾聴するように努めています。	全体会議は2ヶ月に1回開かれている。会議では全員が自分の考え、意見等を気兼ねなく伝えることができています。毎日昼食後に各フロア毎のカンファレンス(5~10分)を開き、管理者は気づきや意見など職員の話を聴き、風通しの良い職場作りを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所の管理者と共に職員の勤務状況の把握をし、資格取得の支援やその後のスキルアップができる職場環境に配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人研修を年4回以上、外部研修にも積極的に受講し技能、知識を習得し個人々の意欲を高められるように配慮しています。研修して得た知識、技実をケアに実践できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して他事業所職員と交流してケアなどの情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人を交えての施設見学を勧め普段の様子を見て頂くようにしています。職員は相談時、心身の状況やその思いを傾聴して、本人の気持ちを受け止められる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心情や今までのご苦勞をその立場になって傾聴、理解し事業所がどのような事が出来るのか検討し最善の対応に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご家族、ご本人の希望や状況をお聴きして利用に繋がる方が確認して、その状況に応じ他のサービスへ繋がるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護する、されていると言う一方的な関係で無く共に支え合い、認め合え、常に感謝の気持ちを持ち支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃、ご家族等の訪問が多く、ご本人の居室で泊まる方もいます。日々の暮らしや出来事を定期的に新聞を発行して報告しています。家族と密な連携が取れるように心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように、本人が暮っていた知人との交流、場所などへ出かけ継続してその関係が保てるように支援しています。	年1～2回ではあるが知人の面会のある方、孫の来訪や電話が掛かってくる方もいる。電話で話す利用者は数名いる。お盆やお彼岸、お正月に外出や外泊する利用者もあり、温泉に行きたいと望んだ利用者が兄弟とともに泊りがけで出かけたこともある。家族と一緒に馴染みの理美容院に出掛けるなど、利用者は家族の協力を得ながら思い出の場所や馴染みの人達とのふれあいを続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の個性を尊重し、出来る事、楽しめる事など見極め利用者同士の関係が支え合い円滑にいくように、職員間の情報共有をして支援しています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活環境になってもこれまでの暮らしが継続できるよう、支援内容、環境、身体状況等の情報提供をして細やかな連携の努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での、ご本人が発した言葉や表情を感じ取りどんな想いかを推測し確認をしています。	利用者の言葉やしぐさ、話などに職員は五感を働かせ、本人が何を訴えているのか、どうしたいのか、思いや意向の把握に努めている。家族からの情報などを参考にし、本人の意欲を感じ取った職員の働きかけで編み物を再開し自分で作って着ている方、職員の手を借り孫や家族に年賀状や手紙を書く方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知る事でその人らしい生活を把握し今までの馴染の関係を継続できるように支援しています。家族、知人等にも情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心理状態や、出来る事へ注目をして持っている力の継続をして行けるよにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問が頻繁にあるので職員は日頃から、訪問時に日常生活の事について相談、報告をしてカンファレンスを行い支援に結びつけるようにしています。	本人らしい生活がホームでも続けられるようにセンター方式を使い、個別の介護計画を作成している。短期は3ヶ月、長期は6ヶ月で見直しをしている。1ヶ月毎、担当者、計画作成担当者、介護主任(必要に応じ看護師)で遂行状況を確認している。医療(アクシデントや病気など)の依存度が高い場合には計画を変更することもある。計画書は本人や家族に説明され確認印を頂いており、本人がサインをしているケースも見られた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過を記録し、日常の変化や出来事、気づきなどの情報を職員が共有し介護計画の見直し評価等に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接事業所の介護教室へ参加されたり、歯科医師等の口腔内健診を行い予防に努めています。遠方の家族は入院時の付き添いサービスを使ったり、口腔ケアリハビリをして嚥下予防をされている方もおられます。柔軟に出来るようにしています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に出席して頂いた方々にボランティアや社協にある団体などの様々な情報を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院や、かかりつけ医への受診支援も行い、それぞれの機関と職員は密な連携がとれるようにしています。家族が受診同行した際は情報を交換をおこなっています。	本人や家族の希望する医療機関となっている。通院や受診には原則ホーム職員が付き添い、本人の心身の状態を報告している。家族が同行することもある。利用者が急変若しくは緊急事態が生じた場合には主治医に連絡し、適切な医療を受けられるよう配慮している。診察結果は管理者、看護師または計画作成担当者が電話で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており日常生活の健康管理や状態の変化などの医療面を把握し、介護職との相談、助言も行い適切な指示の下連携をとり支援を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が有った場合は、定期的にお見舞いに伺い医療機関、ご家族との情報交換に努め長期化しないようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴う指針等について事業所の説明を行い、今後も状態の変化に応じて随時家族と相談しながら取り組んでいきます。	重度化に関する指針が作成されており、契約時にホームの方針も含め説明している。ホームで最期まで見て欲しいと希望する家族もいる。看取りの事例はないが2名の方が終末期をホームで過ごしながらか状態悪化のため医療機関に移り最期を迎えた事例はある。安心のために特養や他施設に申し込んでいる利用者や家族もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の修得に向けて日頃から看護師が指導して緊急時に備えています。年度内に救急法の研修を行なう予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し消防署職員による誘導方法、夜間の避難方法など職員、利用者が参加し、指導して貰っています。地域とも避難方法、協力体制について話し合いをしています。	隣接の通所と居宅の3事業所合同で消防署指導の下、防災訓練(通報、避難誘導、消火器の扱いなど)を行っている。車椅子の利用者も職員の誘導を受け避難している。9月の運営推進会議では防災訓練の様子や課題を報告し、出席者と意見交換もしている。年度末の訓練には区長が参加する予定である。自家発電、反射式ストープ、携帯コンロなどを準備し、食料品等も3日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の生活の中で、理念にもとづき全職員が「尊厳のある暮らし」を実践していけるように研修や会議を行い理解に努めています。プライバシー、守秘義務についても折に触れ確認しています。	法人の「接遇に関する研修」を受け、尊厳のある安心できる日常生活の支援に取り組んでいる。名前や苗字に「さん」をつけて呼んでいる。利用者に電話が来た時は子機を用いて自室で話してもらっている。オムツ交換時はドアを閉め、更にカーテンを引き、バスタオルで身体を覆い支援するなど細やかなサービスを提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常の中で利用者の声に耳を傾け聴き漏らさないように心掛け、自己決定できるまで待つようにしています。意志表示が出来ない方でも表情や反応を読み取り決定していけるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活リズムに合わせて職員の都合や押し付けにならないように、個々を尊重して柔軟対応できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	拘わりを大切に、その時々に見合った服装を本人や職員と選んでいます。意思表示の難しい方は目の動き、発する言葉を汲み取り選び、家族へも折に触れ好みの物などもお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を取り入れ、一人ひとりの好みなども聴き献立作りをしています。職員と共に協力して毎日、食事作りや食卓を囲み楽しめる雰囲気心掛けています。	献立は職員が季節料理、利用者の好物などを織り込みながら作成し、法人の管理栄養士に見てもらっている。食形態はミキサーやキザミ、また、治療食(減塩や糖尿)など利用者一人ひとりに合ったものを提供している。食器洗いは当番制となっている。プランターで夏野菜を栽培し、家族などからの差し入れ(野菜、果物、お菓子等)も多く、重なる時は頂き物で対応することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を中心に栄養バランスを考えた献立作りをしています。食物繊維の多く含む食品を摂取し便秘の予防や、体調に併せ食事形態を変えたり主治医から高カロリー補助食品を出して貰うこともあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医師、衛生士の健診や適切な助言を受けながら、本人の習慣を踏まえた上で、毎回、嗽や歯磨きを行い清潔保持に努めています。適切なアドバイスにより嚥下障害が改善している方もいます。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜、誘導しトイレで行なえるように心掛けています。個別の身体状況に応じて数名ですが紙パンツから布パンツに変わった方も数名おり、カンファレンスの中で排泄状況の見直しをして自立できるように支援しています。	利用者一人ひとりの排泄状況を分析し、トイレでの排泄や排泄用品の適切な選択により排泄の自立に向けた支援が行われている。立位不安定で転び易い方や排泄場所が認知できない方が夜間ポータブルトイレを使っている。男性と女性のトイレが別々になっており、明るく広々としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を記録し排便状況の把握に努めています。食物繊維食品を摂り、本人の身体状況に合わせ多目の水分補給や乳製品を取り予防に努めています。改善しにくい方は主治医へ相談し下剤を服用していることもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの時間や曜日など、一人ひとりの希望に添えるようにしています。入浴を好まない時は、無理強いせずにご本人がその気になるまで待ち、入り易い声掛けの工夫をして入浴の支援をしています。	ユニットバスにはミストシャワーも備わっている。ほぼ自立している方もいるが安全に配慮し二人介助の方もいる。少なくとも週2回は入浴しており、毎日でも可能である。日曜日でも希望があれば入浴はできる。拒む利用者も時間や職員を変え週1～2回の入浴に努めている。柚子湯や入浴剤を時々入れるなど、変化をつけている。駅までホームの車で送迎し、年1回、家族や親戚と温泉一泊旅行に出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中なるべく活動を促したり、午睡なども行い生活リズムを整えるようにしています。眠剤を服用している方は精神、身体状況を把握し主治医へ相談し調整するようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が主に薬の管理をし、受診後処方された薬について職員間で申し送り、記録を行い服薬、薬効能等の確認を行います。誤薬がないように袋へ名前、日付を書き込みをし、服薬前後職員が確認し合いご本人へ渡し予防に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、食事作り、縫い物など得意な事、興味のある事、出来る事へ目をむけ、ご本人が張り合いの持てる暮らしが出来る支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて近隣への散策、外食、買い物など、本人の思いに添えるように支援をしています。家族と連携をとり温泉や同窓会など遠方へ外泊される方もいます。	日常的には近所の公園へ散歩がてら出かけている。行事外出は法人の車を借りて年4回(花見、バラ・花火観賞、秋の遠足など)出かけている。自宅周辺のドライブや買い物などの個別外出支援もし、おやつや日用品など食材以外の買出しには利用者2～3人と職員とで出かけている。回転寿司などへ出かけることもある。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族と相談の上ご自分で管理し受診買い物など支払を行っています。自立支援制度を利用している方も少額の金銭自己管理をしています。事業所の食材日用品等の購入時はお金を支払い満足感が得られるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の日々の心情を汲み取り手紙を出せる、電話が架け易い雰囲気をつくっています。自室では子機を使用して、かかってきた電話も事務所内など人目に触れない場所に配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中で整理整頓に心掛け季節感を取り入れ、居心地よく暮せるように工夫をしています。	居間兼食堂とキッチンスペースがワンフロアとなっており二つのテーブルを囲み、食事の準備をしたり、趣味活動やテレビを見たりと利用者と職員は何時も一緒に過ごしている。広い廊下を挟んで各居室が並んでいる。居室の戸は引き戸で木目が活かされ明り取り風の細工も洒落ており、とても落ち着いた雰囲気をかもし出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間の中ですが食堂にはソファを置き、大きなテーブルを活用して思い思いに過ごせる工夫をしています。暖かい時期はデッキで日光浴やお茶飲みなどして過されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴れ親しんだ家具、仏壇など持ち込まれた方も居ます。ご家族の意向、ご本人の拘りなどその人らしく居心地良く暮せるように工夫しています。	戸を開けると花柄の壁紙がバット目に入り、明るい雰囲気の居室である。持参した沢山の洋服を備え付けの押入れに納めている利用者もいた。フローリングにベッドの方、自宅と同じようにカーペットの上にマットレスを敷きコタツのある居室、椅子に沢山の縫いぐるみを置き誕生日の色紙や家族写真がある居室など、本人が過ごし易く、安心できるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体状況に合わせ、職員が話し合いをもち用具、器具を検討しご家族へ相談し協力を得ながら生活できる環境作りをしています。		